

2025.1.15

# 桃山孤立ゼロプロジェクト 調査結果と今後の展開について

船江中央自治会・船江平和台町内会エリア





# 1. 目的と背景

# 目的と調査方法

目的：「孤立」を**ゼロ**にしていく。

対象エリアお住まいの方の「孤立」に関する意識調査  
アンケート調査＋当日の訪問時の聞き取り・様子から  
実態を把握する。

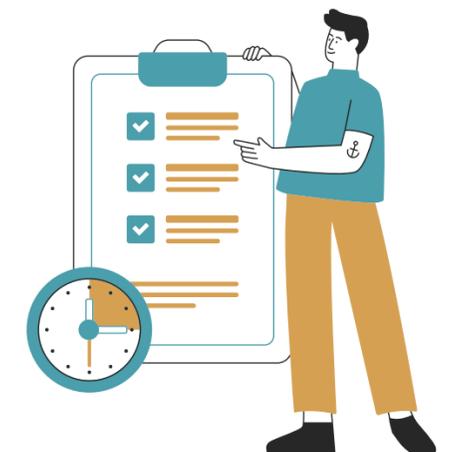
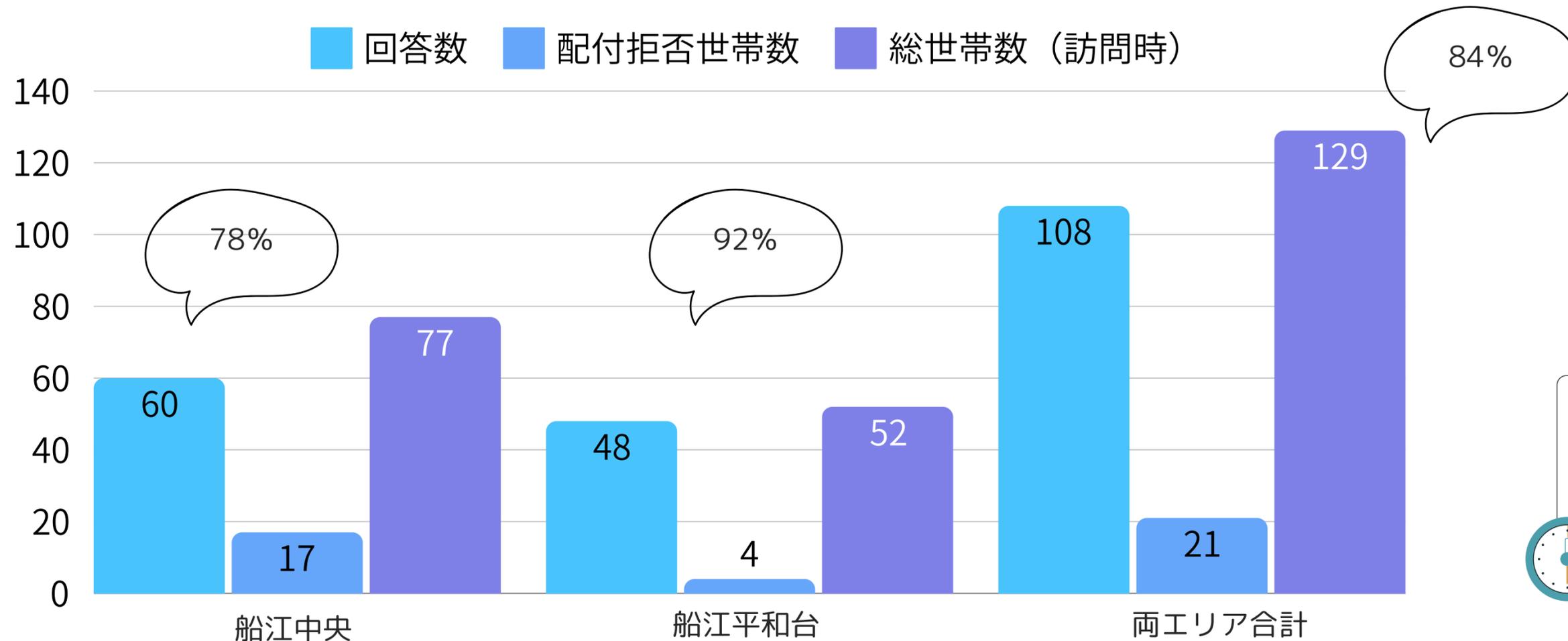
調査結果を通して、この地域で孤立をなくすために、  
どのような取り組みがいいのか考えていくきっかけや  
根拠をつくる。



# 2. データ収集方法

# データ収集方法

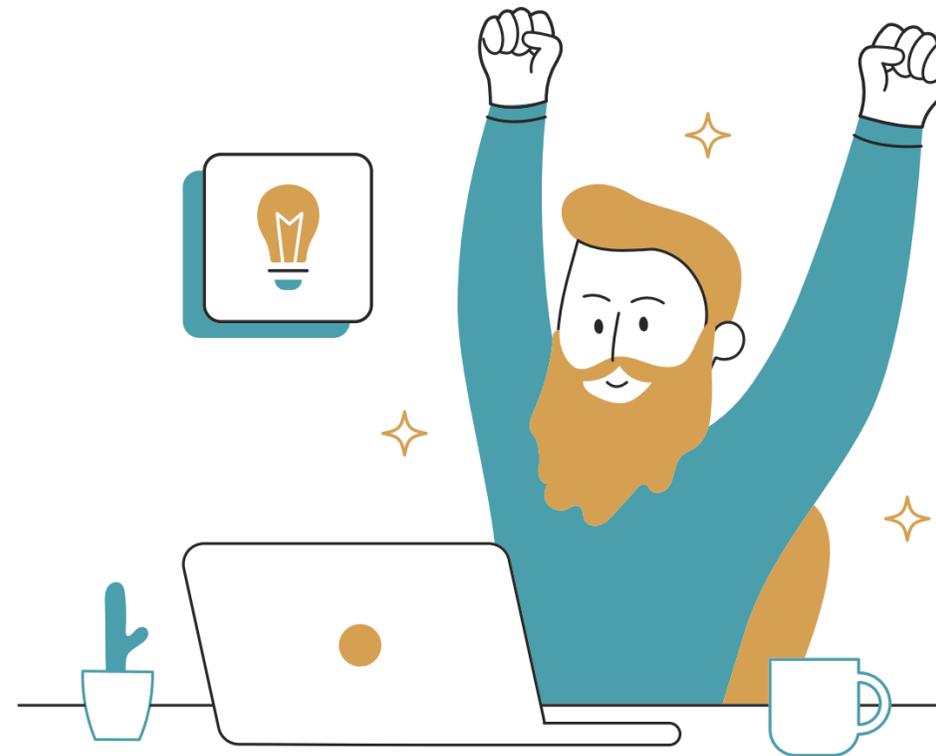
11月10日の訪問と回収したアンケートデータ  
(エリア住居者・訪問ボランティア)を集計・分析しました。



# 3.実施結果の概要

# 調査結果から見える地域課題

船江平和台エリアでは**心理的ケアと相談窓口の利用促進**、  
船江中央エリアでは**多様な世帯構成への個別支援**が必要です。  
孤立を防ぎ、地域全体で支え合う環境を作ることが、  
両エリアの課題解決に繋がります。



# 調査実施から見えた地域の良さ

プロジェクトの事前準備や当日の様子から、  
自治・町内会や近所づきあいによる**環境づくりや協力体制**、  
**顔が見える関係から生まれるつながり**を垣間見ることができました。  
参加したボランティアからも、プロジェクト参加を通して  
新たな一面の発見につながりました。



# 調査実施から見えた地域の良さ（船江中央）

プロジェクトの事前準備や当日の様子から、  
自治・町内会や近所づきあいによる**協力体制**、  
**顔が見える関係から生まれる安心感**を垣間見ることができました。  
参加したボランティアからも、公共スペースの清潔さの発見等、  
自治・町内会の活動の効果の発見につながりました。



# 調査実施から見えた地域の良さ（船江平和台）

プロジェクトの事前準備から、  
自治・町内会や近所づきあいによる**安否確認の様子や協力体制、  
自治会組織の大切さ**を垣間見ることができました。  
参加したボランティアへの、**自治・町内会による訪問活動の  
協力体制と近所づきあいの発見**につながりました。



# 4.実施結果の詳細

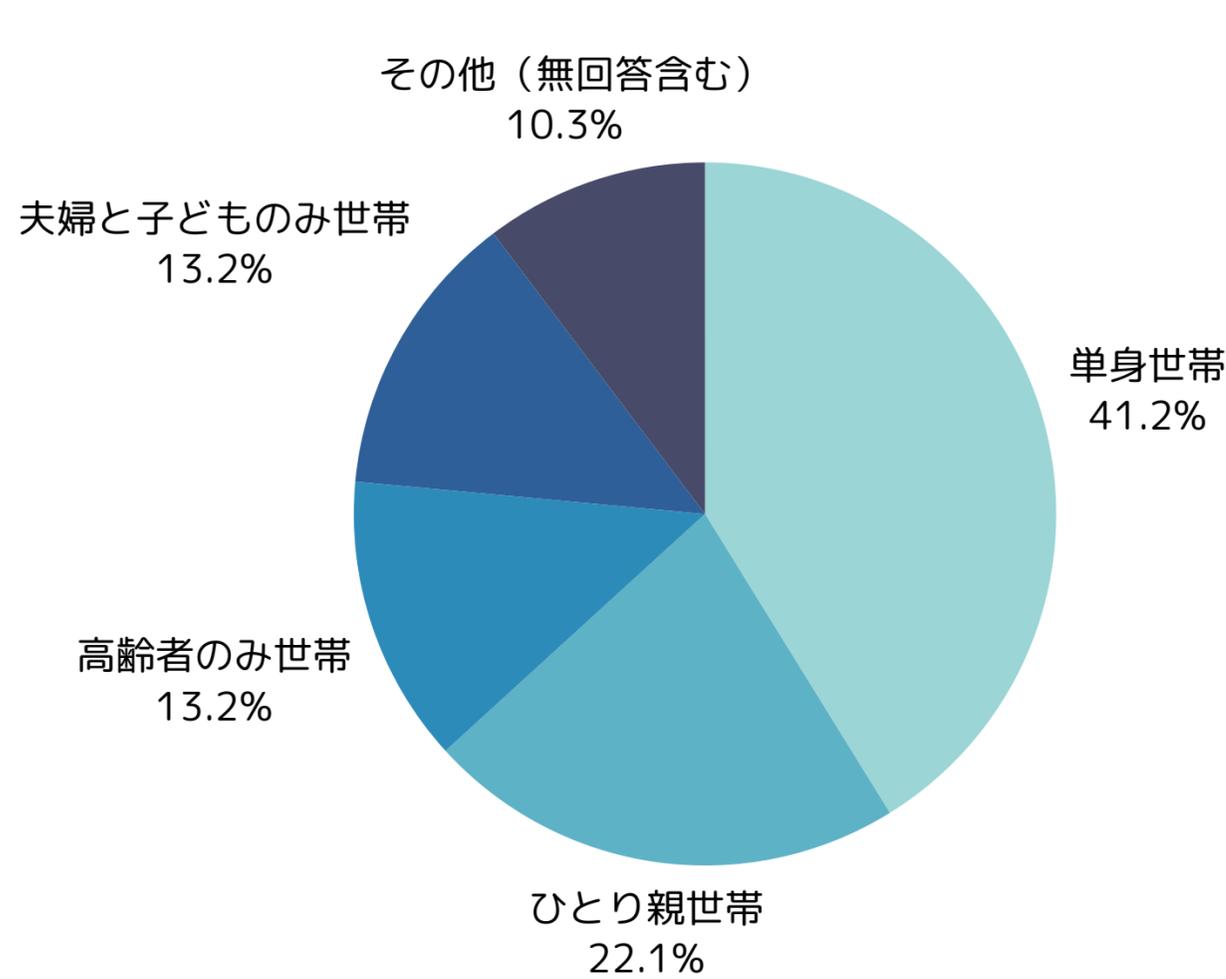
# アンケート内容

プロジェクトの事前準備や当日の様子から、  
自治・町内会や近所づきあいによる**環境づくりや協力体制、  
顔が見える関係から生まれるつながり**を垣間見ることができました。  
参加したボランティアからも、プロジェクト参加を通して  
新たな一面の発見につながりました。

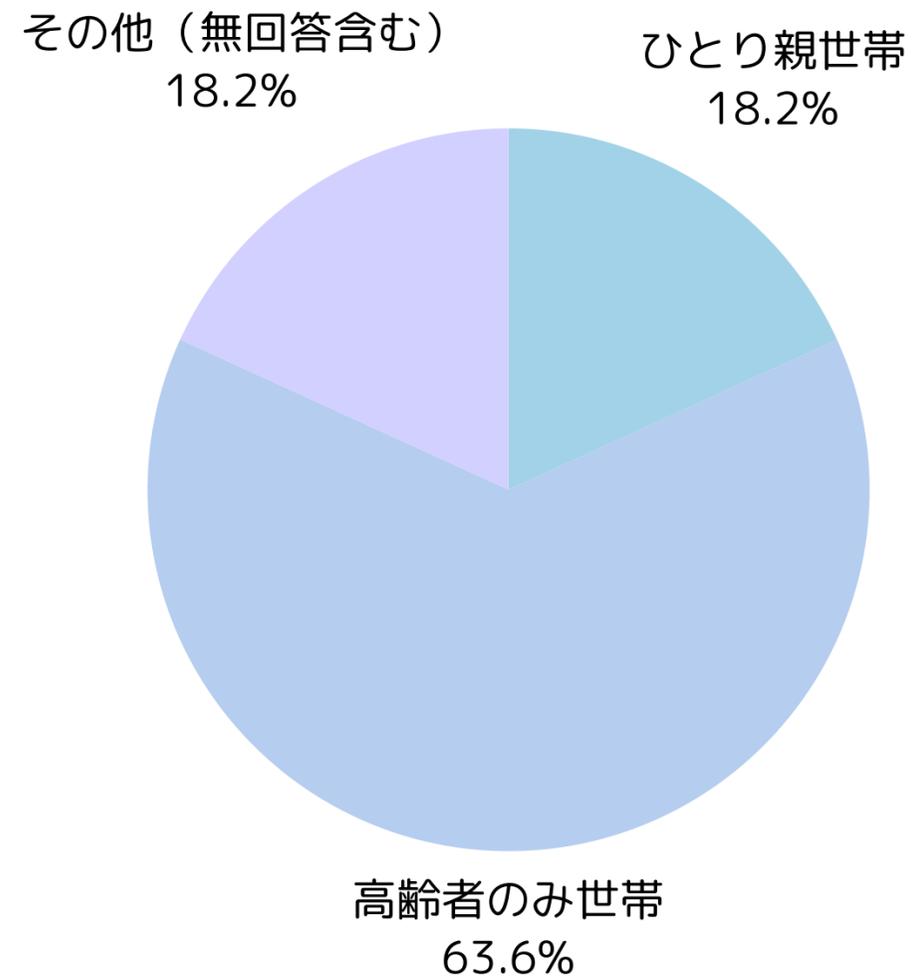


# 世帯傾向

どちらのエリアも「単身世帯」の割合が高い。  
平和台は高齢者が多く、船江中央は家族の多様な形態が特徴的です。



船江中央自治会



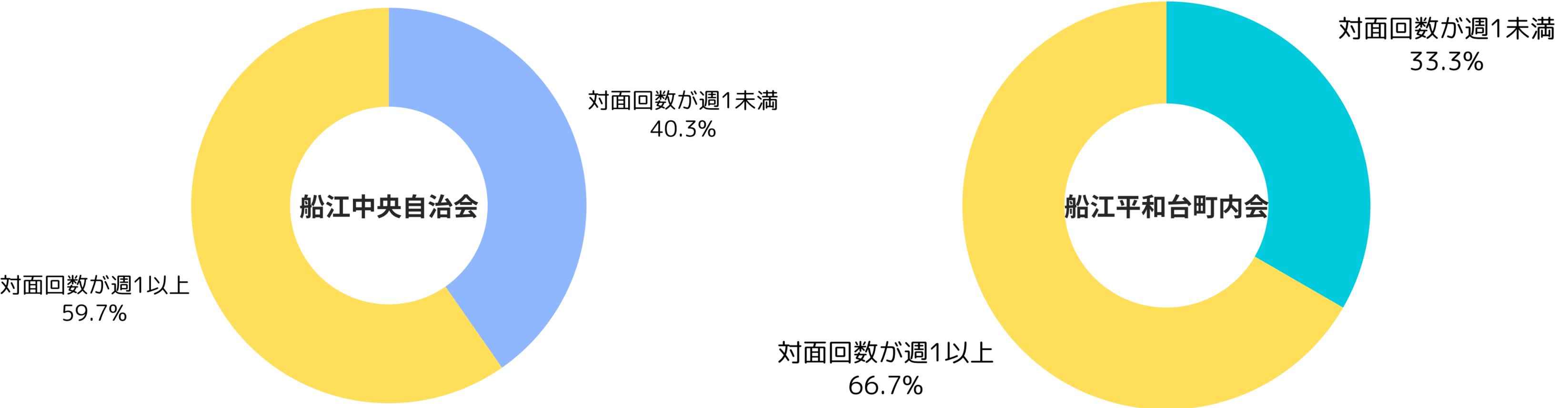
船江平和台町内会

## その他の回答

- 平和台  
「母親と息子」  
「母親と長女」  
「誰もいない」  
「みんな死んだ」
- 船江中央  
「高齢者(父)と50代娘の2人」  
「夫婦」  
「3人(親・本人・弟)」  
「親(80代女)子(50代女)」

# 同居外の人と会う頻度のエリアごとの割合

どちらのエリアも6割以上の世帯が週1回以上対面する機会がある。



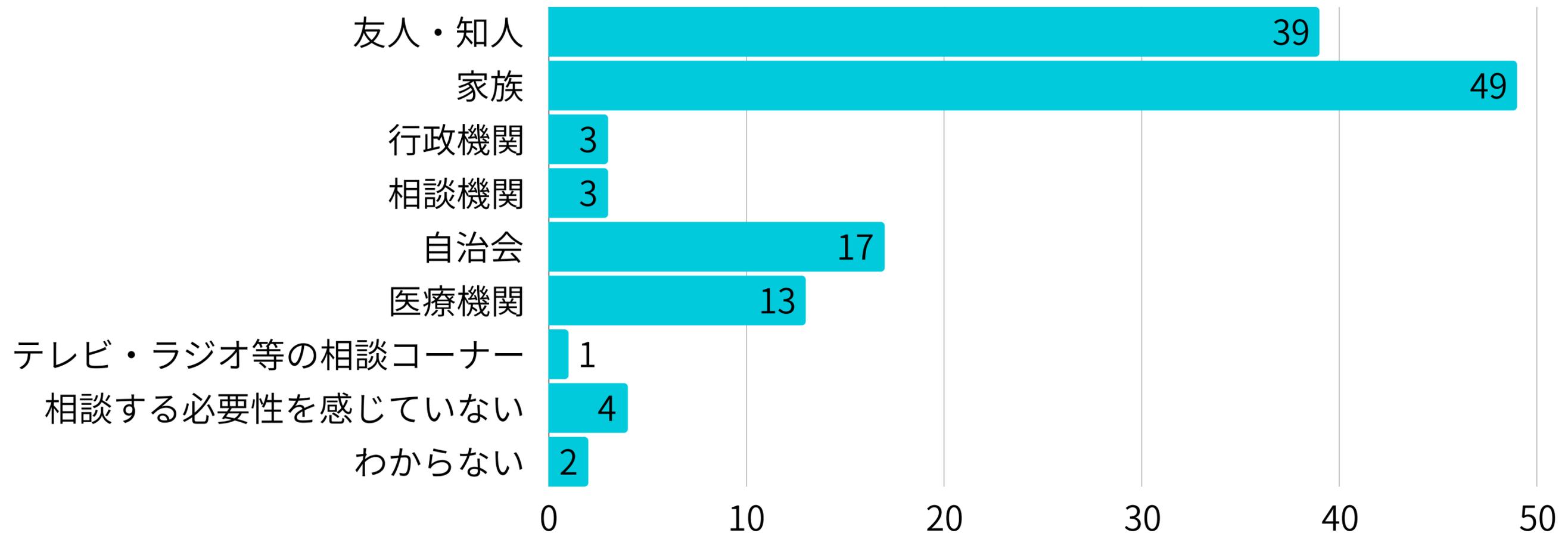
アンケート項目では、「週4回以上、週2～3回以上、週1回程度」⇒週1以上

「2週間に1回程度、月1回程度、月1回未満、全くない」⇒週1未満

週1回以上対面の機会があると、リスクが低くなることから週1対面のラインを孤立リスク基準としている。

# 相談できる人は身近にいますか？

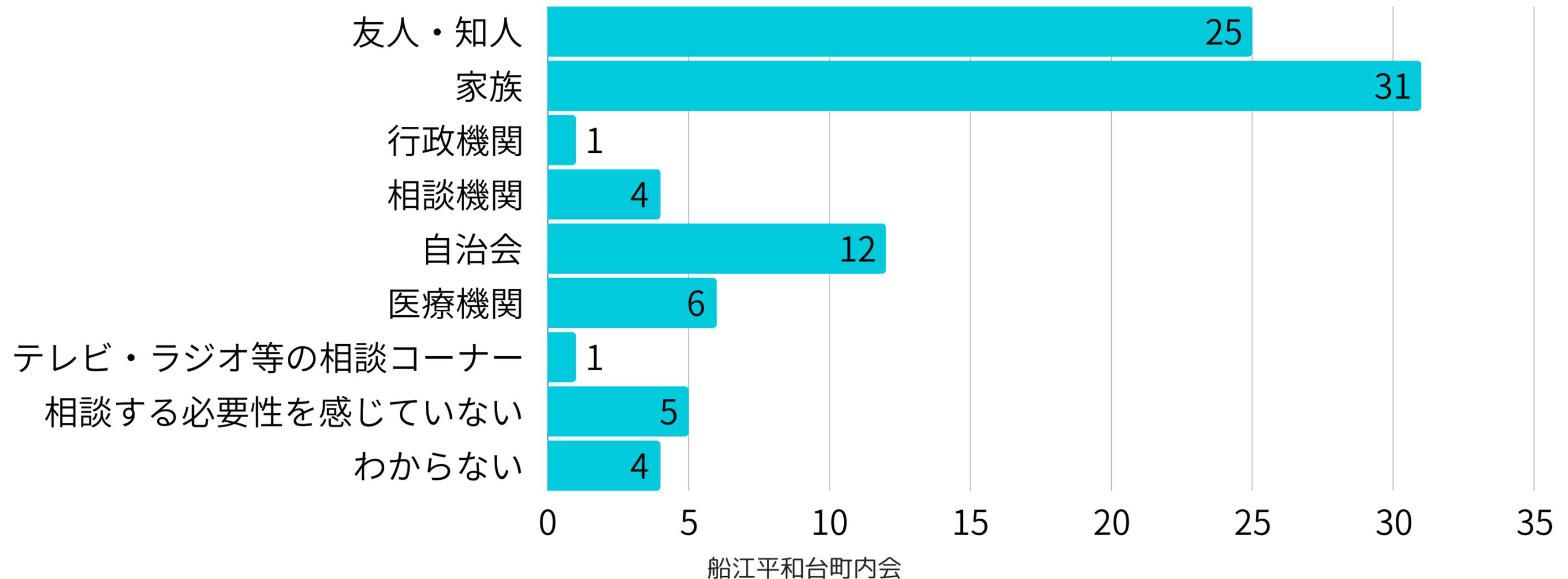
どちらのエリアも、「家族」「友人・知人」の回答数が多いです。一方では、「相談する必要性を感じていない」「相談先がわからない」と回答している人も一定数います。



船江中央自治会

# 相談できる人は身近にいますか？

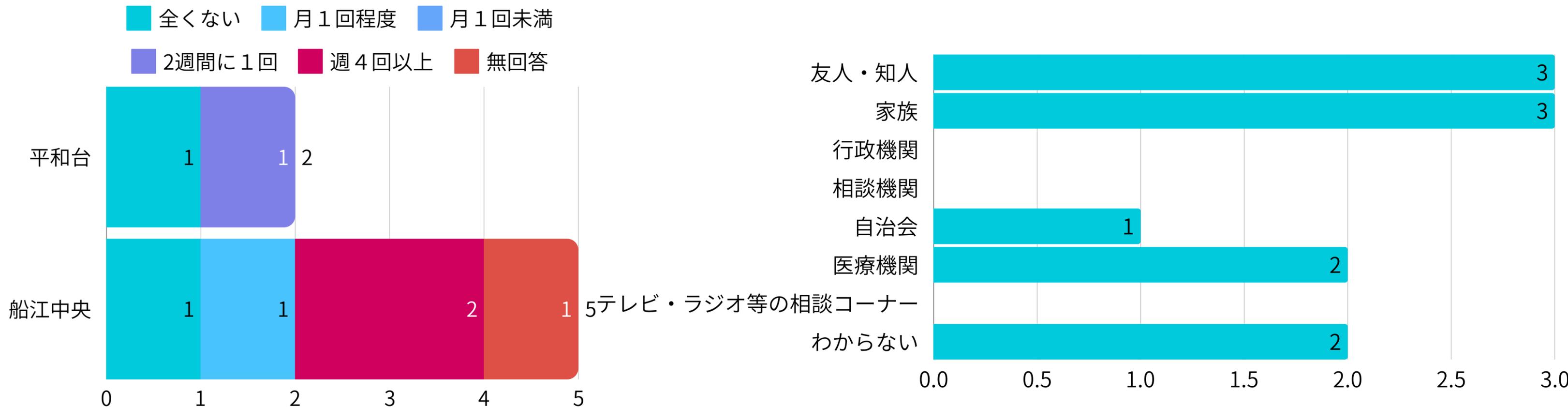
どちらのエリアも、「家族」「友人・知人」の回答数が多いです。  
一方で、「相談する必要性を感じていない」「相談先がわからない」と回答している人も一定数います。



# 「相談する必要がない」の回答者の傾向

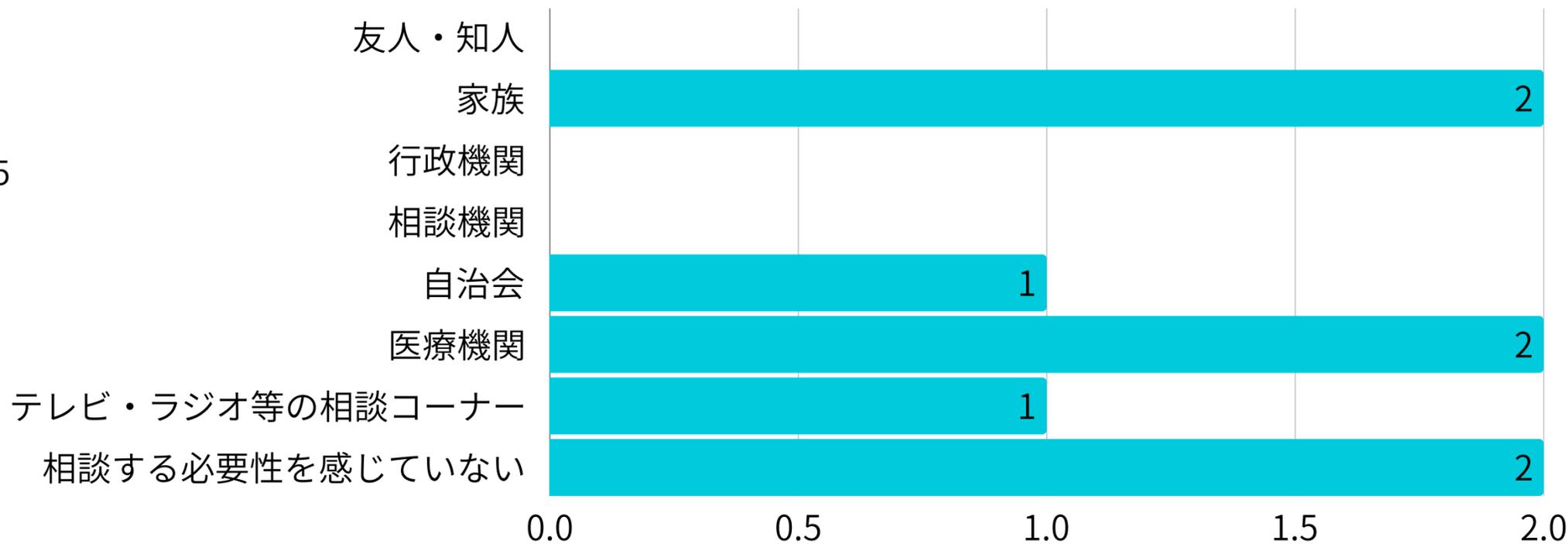
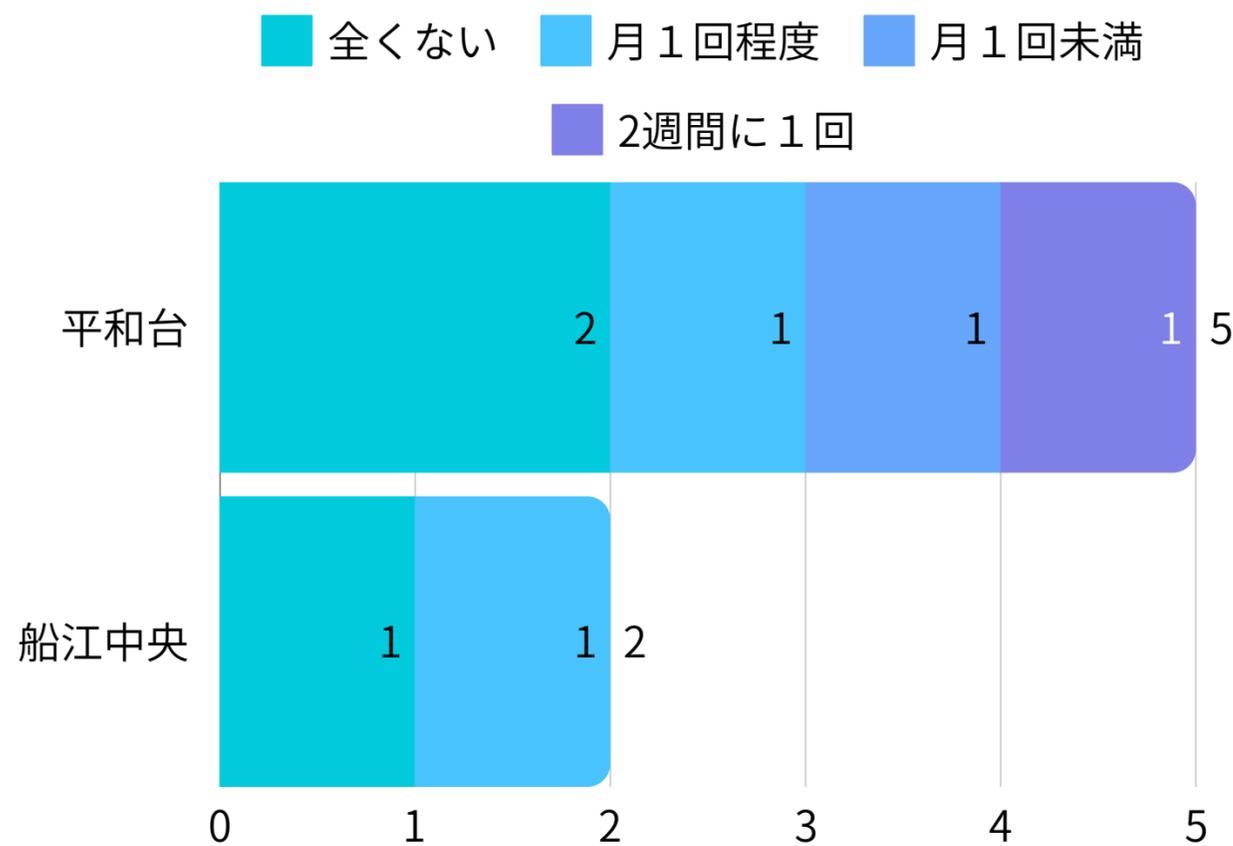
ほかの相談先は「友人」「家族」が多く、  
「わからない」と回答する世帯もあります。

対面頻度は週4回以上と2週間に1度以下の回答があります。



# 「わからない」の回答者の傾向

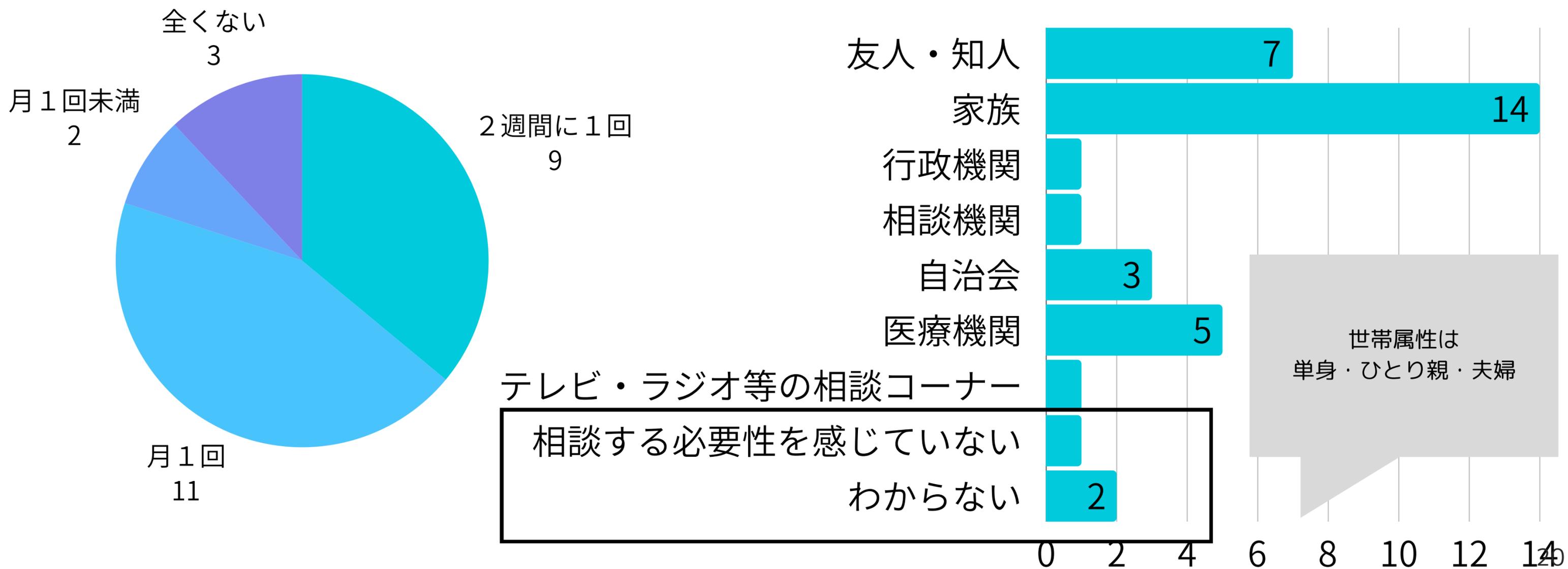
ほかの相談先は「家族」「医療関係者」が多く、  
対面頻度も2週間に1度以下となっています。



# 対面回数が週1未満の詳細と相談先の回答状況（船江中央）

対面回数が週1未満と回答した世帯のうち、相談する必要性を感じていない、わからないと回答した世帯数は**3件**でした。

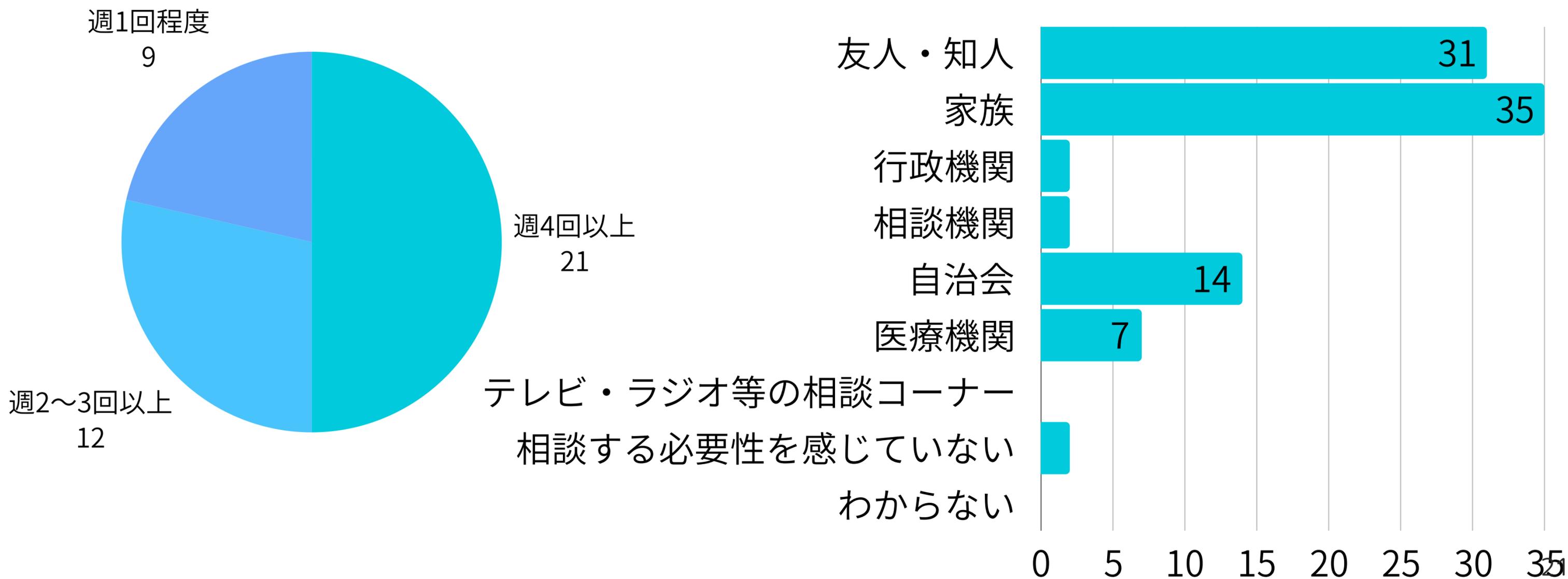
他の相談先には「医療機関」の回答が多かったです。



# 対面回数が週1以上の詳細と相談先の回答状況（船江中央）

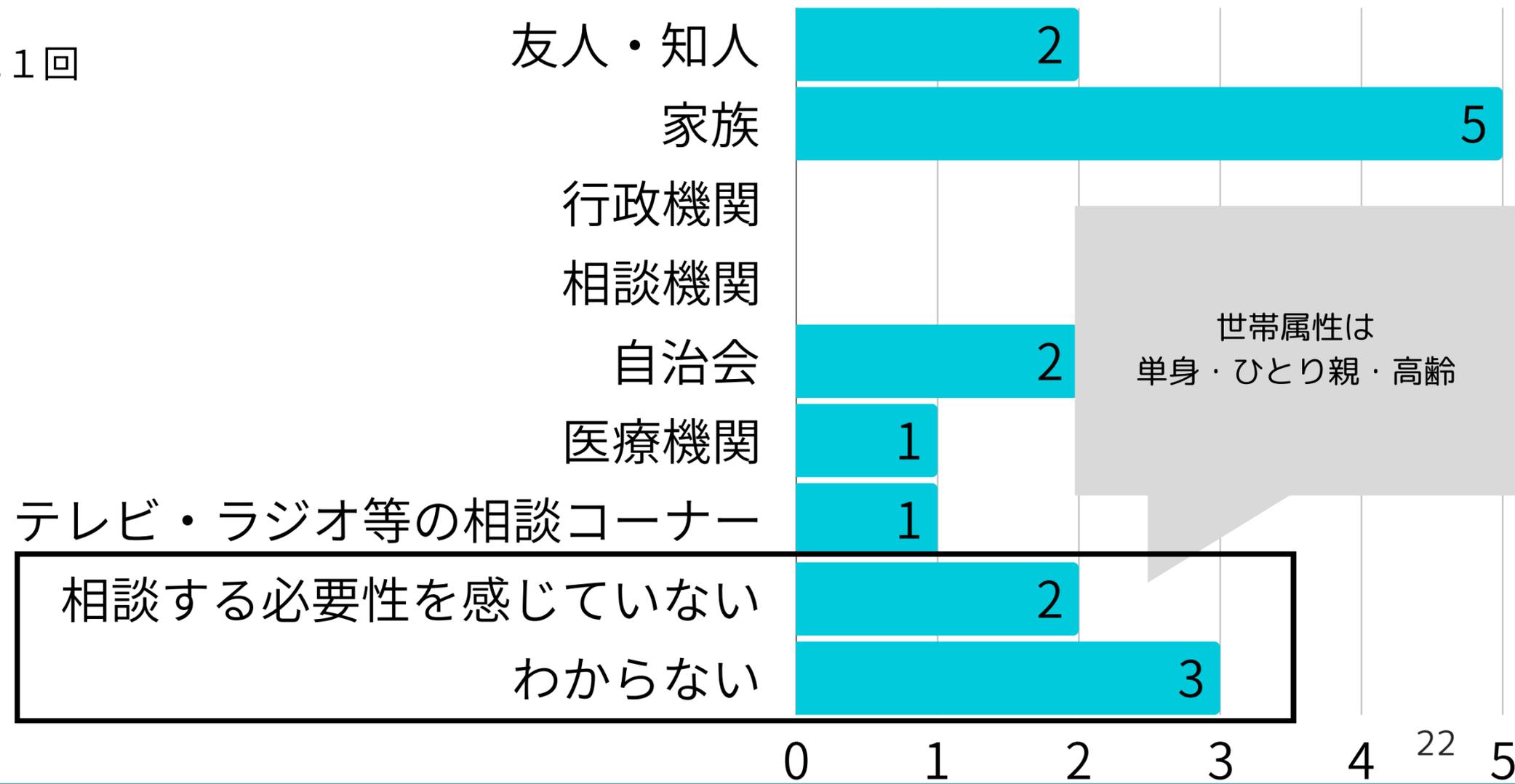
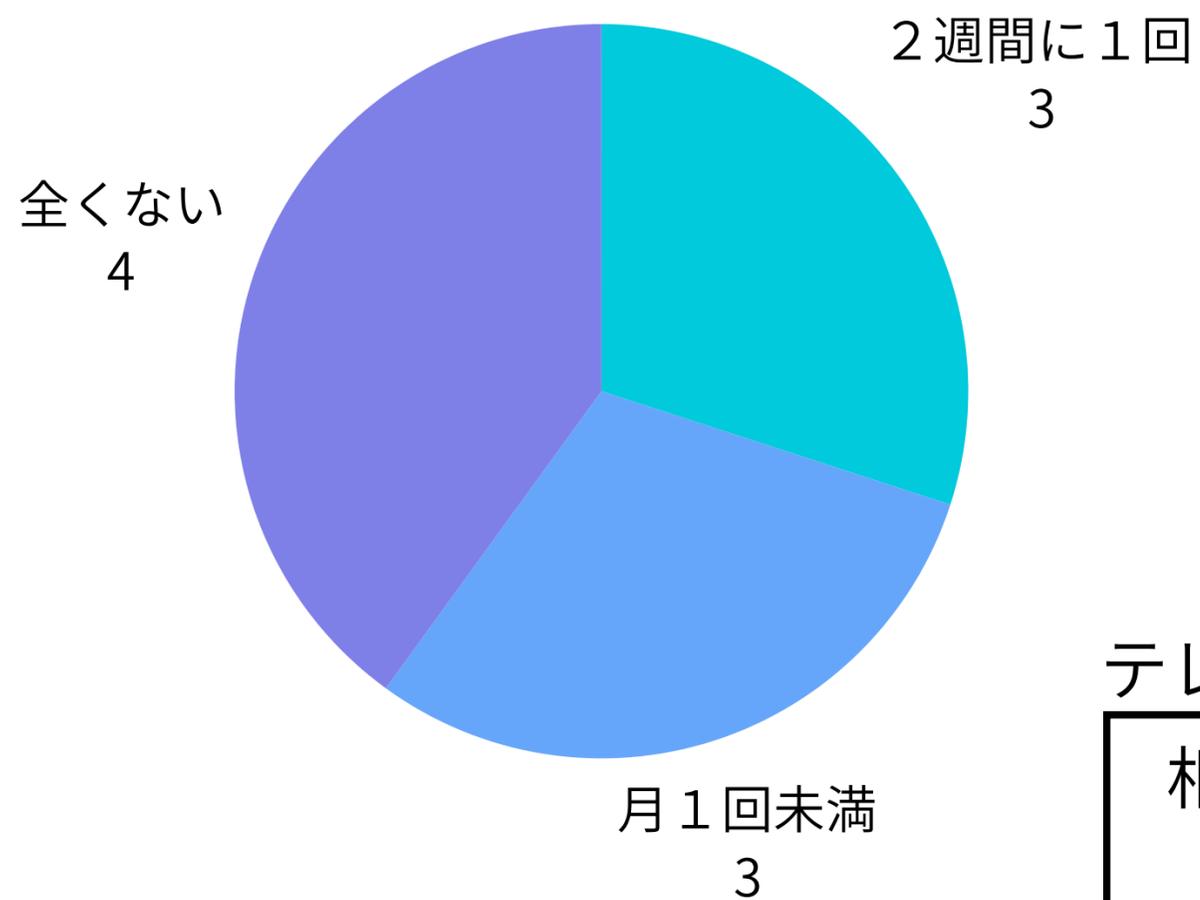
対面回数が週1以上と回答した世帯の相談する必要性を感じていないと回答した世帯数は2件でした。

他の相談先には「家族」や「知人・友人」の回答がありました。



# 対面回数が週1未満の詳細と相談先の回答状況（船江平和台）

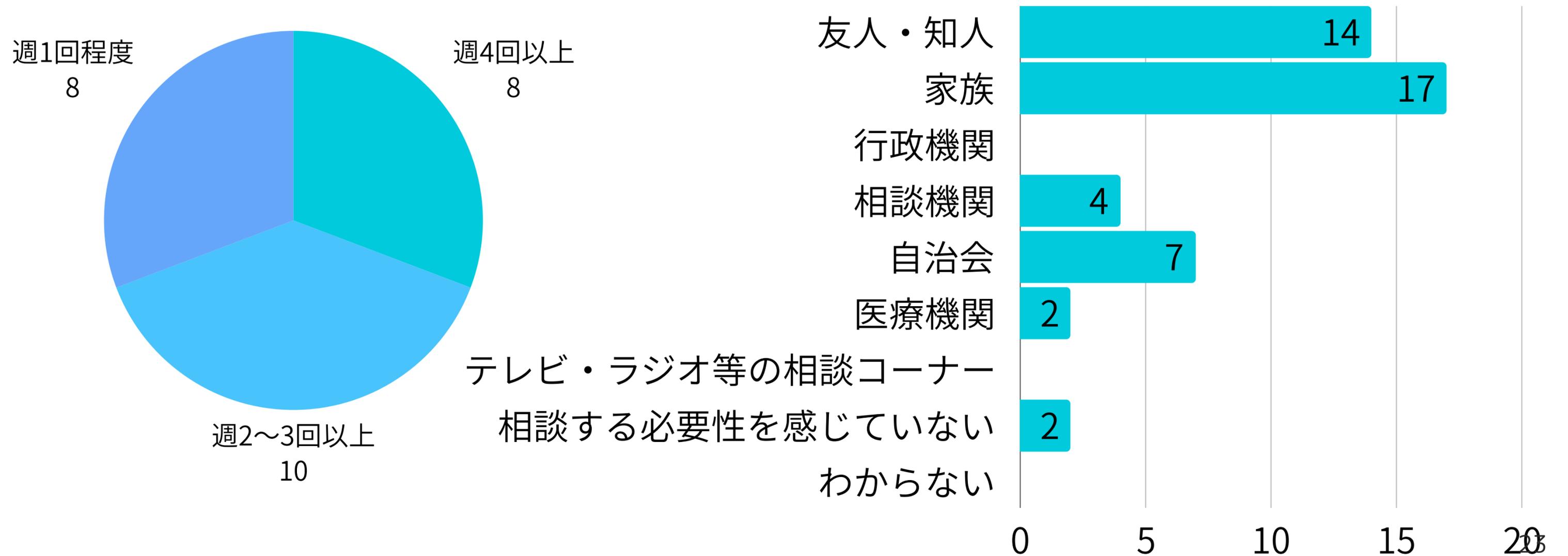
対面回数が週1未満と回答した世帯のうち、相談する必要性を感じていない、わからないと回答した世帯数は4件でした。



# 対面回数が週1以上の詳細と相談先の回答状況（船江平和台）

対面回数が週1以上と回答した世帯の相談する必要性を感じていないと回答した世帯数は2件でした。

他の相談先には「家族」の回答がありました。



# 当日参加者による地域の印象

船江中央自治会

01



## 世代の多様性

高齢者が多い印象  
同時に多様な世帯構成  
がいる

02



## 住居環境の差

公共スペースがきれい  
世帯によっては衛生面が  
気になる様子もあった

03



## 住民の様子

アンケート用紙記入が  
スムーズにできた世帯や  
詐欺対策で警戒する世帯もいた

# 当日参加者による地域の印象

船江平和台町内会

01



## 高齢・単身世帯の多さ

高齢者や単身世帯の多さに  
印象が残っていた様子や  
日常生活に不安の声もあった

02



## 相談のハードル

「相談したいが話しづらい」  
相談へのハードルが高いと  
うかがえる声があった

03



## 継続性

班長や地域住民の協力体制が  
あり、孤立を防ぐ地域の繋がりが  
あった

# 当日参加者による運営の印象

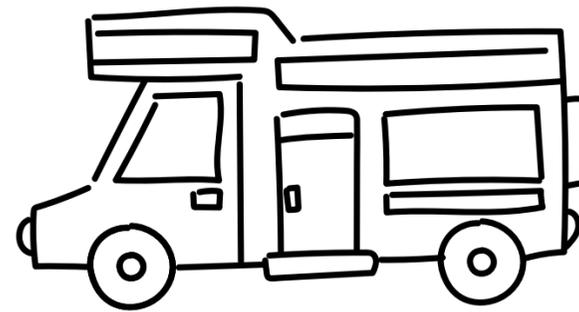
01



## 事前準備

全体的に事前準備がしっかりしており、スムーズに対応できたと評価が多かった

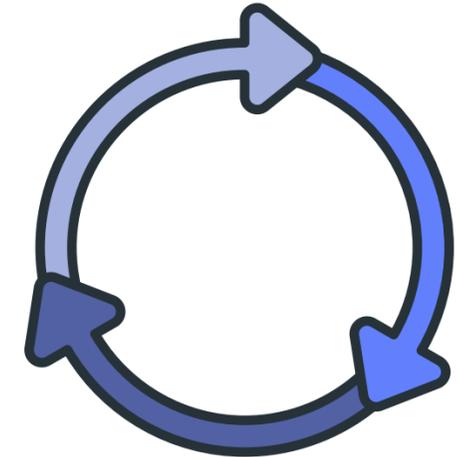
02



## 運搬方法

キャンプ用キャリー活用など物資運搬の効率化に関する提案があった

03



## 継続の重要性

地域の日常的なかかわりや住民とボランティアとで情報共有が行われたことに意義を感じた

## 困りごと（自由記述）の傾向（総括）

回答者の多くは、高齢化が進む中での経済的・身体的負担を感じており、医療や生活の利便性向上を求めています。また、社会的なつながりの薄さや、防犯・災害時の安全確保に対する不安が共通課題として挙げられます。これらを解決するための、地域サポート体制や制度改善の必要性が見受けられます。



# アンケートから見える困りごとと課題傾向

01



## 高齢化による 生活課題の多様化

- 医療アクセスの困難（バスの本数減少、体力的負担）
- 日常生活（雪かき、ゴミ出し）
- 病気や孤立への不安

02



## 経済問題

- 医療費の増大、物価高、光熱費負担
- 年金の手続き不備や制度への不安
- 給付金の期待

03



## 将来の不安

- 後見人や死後対応への懸念
- 夜間の災害に対する備え不足
- 防犯への不安感（詐欺や災害時対応）

# 困りごと（自由記述）の傾向

## 1. 高齢者特有の不安や生活課題

- 健康問題

- 足腰の衰え、糖尿病のインスリン治療、病気に対する相談先の不安。
- 一人暮らしで病気になった場合の不安。

- 医療アクセス

- 医者へ行くための交通手段がバスのみで、本数減少が不便。

- 日常の体力的負担

- ゴミ出し（特に冬季の困難）。
- 雪かきの負担。



# 困りごと（自由記述）の傾向

## 2. 経済的な負担

- 収入不足と物価高
  - 物価や光熱費の高騰、生活費の圧迫。
  - 医療費（国民年金のみで医療費が月4万円）による生活苦。
  - 娘の就職に伴う家賃増加への不安。
  - 給付金の再支給を望む声。
- 保証人の不足
  - 市営住宅移住時の保証人問題。
- 年金関連の不便
  - 年金受給の手続き遅れや制度変更への困惑。



# 困りごと（自由記述）の傾向

## 3. 社会的孤立や防犯への懸念

- 防犯意識の高まり

- 詐欺や災害時の不安に対する対策を求める声。
- 防犯相談の窓口が不明瞭。



- コミュニケーション不足

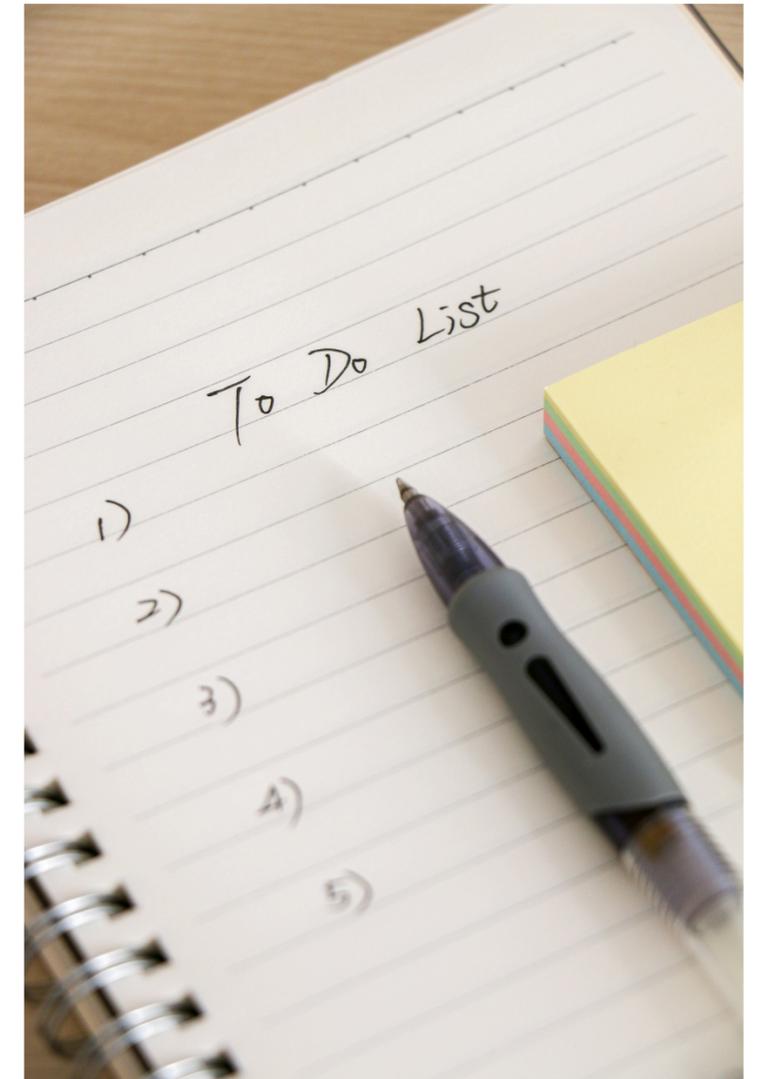
- 他の住人とのつながりが薄い。
- 近隣との協力が不足している印象。



# 困りごと（自由記述）の傾向

## 4. 死亡や災害時への準備不足

- 死後の不安
  - 後見人の役割や死後の対応についての疑問。
  - 死亡時の対応が気になる。
- 災害への備え
  - 夜間の災害発生時に対する不安

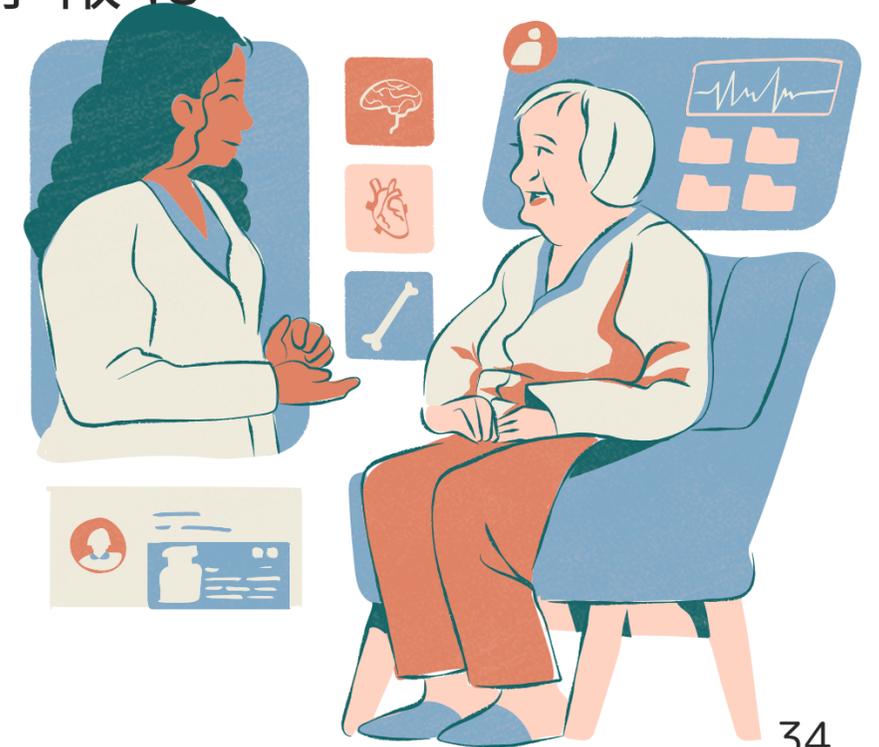


# 5. 今後の展望

# 個別の対応状況

アンケート紙面では、**9件**の相談希望の記入がありました。  
東区社協で個別に連絡を取り、傾聴対応や適切な相談機関につないでいます。

また、訪問ボランティアが「気になった世帯」の情報は  
当日参加した関係機関を通して対象窓口に  
情報提供をお願いしています。



# 支援策の提案（短期）

## 1. 地域の見守り強化

- 高齢者や単身世帯を対象に、定期的な見守り訪問を実施。
- 地域ボランティアや自治体による「孤立防止パトロール」を導入。

## 2. 相談窓口の周知

- 相談窓口や地域包括支援センターの利用方法を、パンフレットや地域イベントを通じて広める。
- 利用しやすい電話相談やオンライン相談の情報提供。

## 3. 心理的ケアの提供

- 訪問による福祉関係者による個別ケアを開始。
- 孤立感を抱えている世帯には、具体的な相談先を案内。



# 支援策の提案（中長期）

## 1. 地域コミュニティの活性化

- 地域住民が集える場所やイベントを定期的で開催し、住民同士のつながりを強化。
- 高齢者や単身者向けの趣味活動や交流会を企画。

## 2. 専門家との情報共有

- 地域包括支援センターのスタッフや福祉専門家のかかわりを継続し、地域との情報共有を行う。
- 高齢者世帯やひとり親世帯には個別プログラムを設け、継続的なフォローを実施。
- 将来の不安に関する内容の勉強会開催や、仕組みとして提供できるような体制。

## 3. デジタル活用支援

- 高齢者がスマートフォンやタブレットで相談窓口にアクセスできるよう、デジタル教室を提供。
- 孤立世帯にも手軽にアクセス可能なオンライン相談環境を整備。



# 運営やアンケート調査などの改善

## ○次回アンケート設計の改善点

新たな質問項目: 孤立リスクの原因をより深掘りするために、次のような質問を追加。

地域のイベントや活動への参加頻度。

孤立を感じる具体的なタイミングや状況。

必要だが現在不足している地域のサービス（例: 移動支援、訪問相談）。

簡便な回答方法: 選択肢の明確化や回答しやすい形式に改善。

## ○スケジュール調整

対象エリアへの事前説明会をエリア決定時点で開催する。

対象世帯へのアンケート協力依頼の徹底。

若い世代も参加しやすいような周知と当日スケジュール設定。

## ○運搬の工夫

キャリーケースなどの配付補助道具の用意。

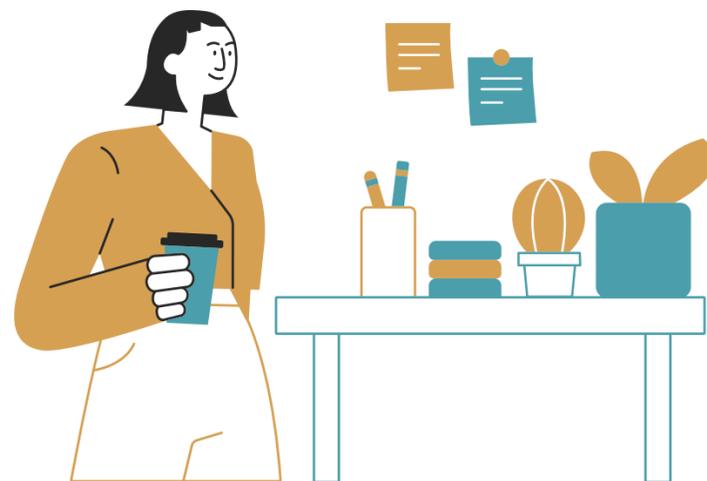


## 最後に

当プロジェクトに参加してくださった皆様に  
地域の「孤立」や生活の様子のお気づきを得たり、今後の地域福祉活動の  
「きっかけ」にしていただければ幸いです。

私達専門職も多くの気づきを得る事ができました。  
今後とも一緒に取り組みを進めていきたいと考えております。

ご清聴ありがとうございました。



# 7.付録